

各地の取り組み—大阪府における植物防疫業務—

大阪府農政室推進課病虫害防除グループ（病虫害防除所） 佐能 正剛

■大阪府の農業の概要

大阪府は日本のほぼ中央に位置し、南北にやや湾曲しており、西は大阪湾に面し、他の三方は山に囲まれています。気候は一般的に温和で四季の区別がはっきりしています。平均気温は17.1℃・年間降水量は1,338mm（気象庁/2021年）です。

大阪では、都市化が進み、農地の約30%が市街化区域内にあり、個々の経営面積が小さく、多様な品目を集約的に生産する施設園芸などの農業経営が営まれ、消費者に新鮮な農産物を安定的に供給しています。平坦部ではナス、キャベツ、タマネギ、ネギ等の野菜が、中山間部ではミカン、ブドウ等の果樹類が栽培されています。

■大阪府病虫害防除所の沿革と体制

1952年8月にそれまで府の別々の機関で進められていた病虫害防除の企画指導と発生予察調査事業を統合し、府本庁に中央病虫害防除所を設置、7カ所の地方事務所にそれぞれ病虫害防除所が設置されました。

1972年4月に8カ所の病虫害防除所が統合され、南部の羽曳野市に本所が、北部の能勢町に支所が設置されました。

1976年には羽曳野市の本所1カ所に統合され「大阪府病虫害防除所」となりました。

2011年4月には組織再編により本庁農政室推進課の1グループとして位置づけられ現在に至ります。所属は本庁組織ですが、執務室の設置場所は従前どおり羽曳野市にある（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所（以下、研究所）内です。現在の職員数は7名+非常勤職員2名です。

■業務の内容

1 病虫害の発生予察・情報提供

府内主要11作物について、指定有害動植物55種を対象に、定点巡回調査をはじめ、予察灯やフェロモントラップ等による調査を実施しています。これらの調査結果と関係機関等からの現地情報、気象庁の気象情報等を基に所内で検討を行い、以下のような病虫害発生予察情報を発表しています。

関係機関向け「病虫害発生予察情報」を4月～11月に毎月発表。一般農家も含めた「病虫害発生・防除情報メールサービス」は毎月末に年12回、警報、注意報、防除情報及び特殊報は必要に応じて発表しています。これらの発信情報は、ホームページ、FAX、メルマガ、Facebook、研究所のメール配信などで随時発信しています。

重要病虫害侵入警戒調査では、チチュウカイミバエ、ウリミバエ、ミカンコミバエ種群のトラップ調査やカンキツグリーンング病菌（ミカンキジラミ）、コドリノガ等について、研究所に業務委託し、定点巡回調査に研究員の同行を得

て同時に調査を行っています。

また、2015年に府内で初確認され、府南部を中心にサクラヤモモ、ウメに被害が拡大しているクビアカツヤカミキリについては、農の普及課、JA、研究所、神戸植防、市の協力を得て、主要モモ産地2地区の発生状況調査を毎年行うとともに各種防除情報を提供しています。

2 防除指針の作成・公開

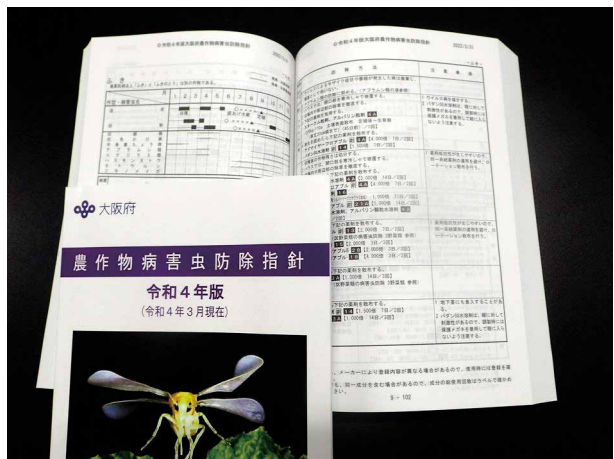
年1回発行の「大阪府農作物病虫害防除指針」(図)は水稻から花きまで約70種の府内主要作物の病虫害防除について詳細に記載し、現在も約500ページの紙冊子を発行し続けています。また、記載内容はホームページで一般にも公開しています。

3 大阪工コ農産物認証制度

病虫害防除所では、認証面積522.6ha、認証件数5,062件(2021)にのぼる「大阪府工コ農産物認証制度」の認証事務や残留農薬検査等の業務を行っています。

■課題

都市化の進む大阪では農地、農家数とも減少し続けています。また、狭い府域内で多くの人流・物流を抱えているため、外来の新病虫害の発生も多く、常に病虫害防除所には最新の知識の習得と最前線での活動がこれまで以上に重要であると考えています。



ひと手間かけた
安全・安心の印



工コ農産物

大阪府認証

農薬・化学肥料

【不使用】

図 「大阪府農作物病虫害防除指針」及び「大阪府工コ農産物認証制度」の認証マーク